



甲州市・甲州市教育委員会は、「勝沼のブドウ畑及びワイナリー群」を中心とした景観を未来に引き継いでいくために、文化財のひとつである「重要文化的景観」として国の選定を受けることを目指しています。選定に向けて、勝沼地域の特徴を明らかにするための学術調査からはじまり、イベントの開催、パンフレット・調査報告書概要版の刊行など多彩な取り組みをおこなっています。

## 文化的景観ってなに？



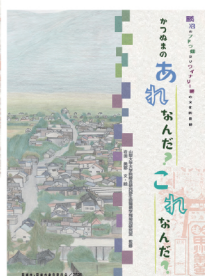
文化的景観とは、土地に人が暮らし、生活や仕事を営む中で、地域の自然や地形を巧みに利用したことにより、生み出されてきた景観のことをいいます。文化財保護法では、こうした景観を受け継ぐ土地を「文化的景観」とし、文化財の1つに位置づけています。

山間や海辺の農村漁村、町場の商家町など、身近にある何気ない景観の中で、さらに、「地域の特色を示す代表的なもの」、「ほかに例を見ない独特なもの」で国が選定したものが「重要文化的景観」です。選定は、地方公共団体（都道府県又は市区町村）からの申出に基づき、また、重要文化的景観選定基準に照らして行われます。

## お家で学ぼう！勝沼の文化的景観

平成28年度から平成30年度の3ヶ年の学術調査の成果をまとめた、『勝沼のブドウ畑及びワイナリー群の文化的景観調査報告書（WEB版）』と、『文化的景観調査報告書』の内容をコンパクトにまとめた概要版2種類（子ども向け／一般向け）を甲州市ホームページにてデジタル公開しています！

詳しくはこちらからご覧ください！



冊子版「調査報告書概要版」は甲州市役所文化財課・勝沼支所・大和支所で配布しています。

## 重要文化的景観に選定されるまでのプロセス

### ① 地域の特徴をさがす（価値調査）

土地・建物の使い方、ぶどう・ワインの作り方のうつりかわりなど。  
平成31年（2019）調査報告書を刊行しました！

### ② 受け継ぎ方を地域の人々で考える（計画づくり）

### ② 地域の魅力をみんなで共有する（普及啓発）

### ③ 市が国に申請

祝 重要文化的景観選定！





## 日本遺産「日本ワイン140年史」構成文化財

### 「葡萄三説及び葡萄三説草稿」の調査を行っています！

甲州市教育委員会では、市内に所在するブドウ栽培・ワイン醸造に関する資料の整備を積極的に進めています。現在、公益財団法人山梨文化財研究所に委託して、明治10年(1877)、ブドウ栽培とワイン醸造の技術を学ぶべく、土屋龍憲(助次朗)とともにフランスに留学した伝習生高野正誠が刊行した『葡萄三説』の草稿の解読調査と筆耕を行っています。

『葡萄三説』とは、高野正誠著の「第一編葡萄園開設すべきの説」、「第二編葡萄栽培説」、「第三編葡萄醸酒説」の三説からなる、フランス式の一大ブドウ園開設構想をまとめた概説書です。当時、ワインの本場フランスで学んだ知識、ブドウ栽培・ワイン醸造の技術、道具類まで具体的に書かれた著書が少ない中、明治23年(1890)に刊行されると、ブドウ栽培とワイン醸造を志す者の良き教科書として全国に普及しました。

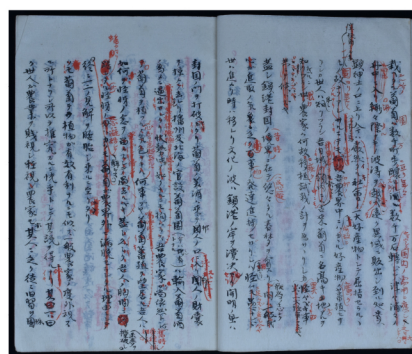
草稿には朱書きや貼り紙で校正がされており、刊行に至るまでの経過を読み取ることができます。写真上段の○版は1回目の校正、下段の△版は1回目の校正を踏まえて2回目の校正がされています。

また、高野正誠の生家から『葡萄三説』の草稿とともに、『葡萄三説』をもとに一大ブドウ園開設の協力を求めて、松方正義、桂二郎(桂太郎の弟)らへ宛てたハガキやその返書も発見されています。

当時の高野正誠の一大ブドウ園構想や交流関係が垣間見える史料で、草稿とともに解読調査を進め、調査成果については順次公開していきます。



■『葡萄三説』の草稿



■朱書きで校正が記入されている



## 景観修景事業「2020東京オリンピック 聖火リレーコース

### ガードレールペンキ塗り」

令和3年2月26日、景観改善事業の取り組みとして、菱山小学校児童37名と聖火ランナーを担当した手塚類さんにご協力いただき、新型コロナウイルス感染症対策のもと、2020東京オリンピック・パラリンピック成果リレーコースのガードレールの修景作業を行いました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。

都市整備課では、新型コロナウイルス感染対策を図りながら、地元住民の皆さまと景観に配慮した修景作業を進めていきたいと考えています。より良い景観のために今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

甲州市役所都市整備課 計画指導・景観担当 TEL0553-32-5072



■修景作業の様子



■修景後

## 今日の勝沼ワンポイント

### collection 8 観光ブドウ園

ブドウを対象とした観光は、「ブドウ遊覧」というかたちで明治時代に始まります。ブドウ畑は食料生産の場から「見物」「遊覧」の対象としても位置づくようになりました。

その後、家庭への自動車の普及が進み、昭和33年(1958)に国道20号で笹子トンネル(新笹子隧道)が開通されるなど道路網が整備されると勝沼地域の観光レジャーとして「観光ブドウ園」が注目されました。



かつぬま旬報 vol.9 Winter 2021は

12月1日発行予定です。

令和3年(2021)9月1日 発行

編集・発行：甲州市教育委員会文化財課

山梨県甲州市塩山上於曽 1085 番地 1

TEL: 0553-32-5076

FAX: 0553-32-5172

詳しくは

勝沼 文化的景観

